

県北の女声デュオ「ル・レーヴ」



区切りのコンクールに向けて練習に励む
阿部さん(左)と森さん=大崎市古川

感謝の気持ち 歌声に乗せ

県北を拠点に活動する女声デュオ「ル・レーヴ」の阿部澄江さん(69)＝大崎市＝、森由紀さん(69)＝美里町＝は14日、東京で開かれる「第10回東京シャンソンコンクール」に出場する。70歳を前に、デュオでコンクールに出場するのは最後と決め、「区切りの舞台で感謝の気持ちを表現したい」と意気込む。

シャンソン全国大会最後の挑戦

同コンクールは歌唱賞を受賞した2019年の第6回以来の出場。音源審査を通過し、本選唯一のデュオとして全国46組に選ばれた。楽曲はデュオを始めて最初に選んだ「すみれの花咲く頃」。日本語とフランス語を交えて披露する。

フランス語の「夢」がグループ名の2人は大崎市古川出身で、幼稚園から大学まで一緒。旧古川女子高(現古川黎明高)ではコーラス

部に所属した。阿部さんは英語の、森さんは音楽の高校教師となった後もシャンソンやクラシック音楽を学び、60歳を迎えた14年にデュオを結成した。

最後となるコンクールに向けては「お世話になった全ての人たちに感謝を込めて、自然体で歌いたい」と口をそろえる。今後はコロナ禍で開催できなかったコンサートのほか、東日本大震災からの復興を願って19年に制作した楽曲「希望の花が開く日」のCD化も目指すという。

「コンクールからは離れるけど、生涯現役で聴く人の心に響く歌を歌いたい」と阿部さん。森さんも「今後は新しい挑戦。何歳になっても試みる勇気を持つて前に進みたい」と話す。